

推薦図書「なぜ僕らは働くのか」(池上彰 監修 出版社:学研プラス)



■子どもだけでなく、大人も元気が出る本です！

小学生から中学生に向けて書かれた本ですが、内容は大人が読んでも、とても参考になる本です。参考になるどころか、仕事に行き詰まって悩んでいる人には、仕事と向き合う元気の出る本ではないかと思います。

■本の帯に掲載されている読者からの感想

★書店員(49歳):進路のことを考え始めた高校生のわが子に贈りたいと思います。上手く伝えられていなかった思いを代わりに伝えてくれる本です。

★中学生(13歳):なぜ勉強するのかという疑問にスッキリする

答えをくれた。

★小学生(12歳):自分に可能性があることを教えてくれてうれしかった。

★小学生(11歳):この本のおかげで未来のことや社会のことがすこしわかり、人生の疑問がちょっと解けた気がした。

★学校図書館司書(38歳):将来について考え始めるときに、世の中のすべての子どもたちに、まず手に取ってほしい。

★商社勤務(24歳):仕事に悩む私の心にとっても響いた。働くことを改めて考えさせられ、今の生活を見直そうと思った。

★教員(38歳):広い視野で世の中の仕組みをかんがえさせられる有益な内容でした。

★高校生(15歳):働くことへの意識が大きく変わった。将来が楽しみになった。

★大学生(19歳):就職に向けて自分の将来のために、繰り返し読みたいと思います。

★会社経営(63歳):進学や就職を控えた学生、現在の仕事に悩む多くの人に届いてほしい。

★通信会社勤務(45歳):時折、泣きながら読みました。大人にとっても“一歩踏み出す勇気”を与えてくれる本だと思います。

■私(長阿彌幹生)の感想

私是不登校当事者の支援を二十年以上行ってきました。我が子が不登校になり、親子で悩んだことがきっかけです。最初はどうしたら学校に戻れるか等の方法を考えました。考えて行く過程で、不登校は日本社会に蔓延している学歴主義や競争主義という利己主義的な考え方から派生していることが分かってきました。それは私の中にあつた固定観念だったので。私自身が不登校をつくりだしていたのです。

このことに気が付いてから、全ての子どもたちが幸せに生きていける社会の実現に向けて、私たち大人に何が出来るか、どう大人が変わるのかを、考え実践していくことが大切だと思うようになったのです。私が講演会やセミナーの中で繰り返しお話しさせてもらっているのはこのことです。w

しかしながら、現在でも不登校の支援は「不登校でも入学できる高校を見つける」「高校に入学するための学力を保証する」という高校進学を前提にしたものが主になっており、子どもの未来について、子どもの意見を尊重しながら、あらゆる可能性を共に考えるというものにはなっていません。

そのような時にこの本が出版されました。待望の書でした。子どもたち「働くこと」だけでなく、「なぜ学ぶのか」「なぜ生きるのか」を考えるために、漫画も加えて分かりやすい提案や資料が掲載されています。大人の私たちも「なぜ働くのか」ということを改めて見直す良き機会を与えてくれます。

この本は私たちに「働くこと」や「学ぶこと」は「幸せに生きるため」ということを明確に伝えてくれています。何度でも読み返して、自分の出発点・拠り所にして良い本ではないでしょうか。